

Sapporo
Creative
Convention

No Maps

10/5thu -
15sun 2017

Conference
Exhibition
Event
Meet-up
Experiment

Sapporo Creative Convention



No Maps 2017 開催報告

I. No Maps 2017 開催概要

(1) No Maps とは？

**テクノロジーやアイデアで、未来の社会を切り拓く。
そんな志を持つ人たちが集い交わる場、
それが“No Maps”です。**

No Mapsは、札幌・北海道という象徴的な開拓の地で、クリエイティブな発想や技術によって次の社会を創ろうとする“現代的フロンティアスピリット”を持った人たちのためのコンベンション（人、情報、知識、物などの交流の場）です。

No Mapsに集った人々はもちろん、この地で暮らす人々のクリエイティビティも高め、地図にまだ描かれていない新たな領域を、札幌・北海道から切り拓いていこうとするものです。

先端テクノロジーや斬新なアイデアを核とした「新しい価値観/文化/社会の姿」を提案するビジネスコンテンツをテーマに、「会議（Conference）」「展示（Exhibition）」「興行（Event）」「交流（Meet-up）」「実験（Experiment）」の5つの事業によって、新たなビジネスを生み出し、加速させるための場を提供していきます。

“No Maps” – 名称の由来

アメリカのSF作家、ウィリアム・ギブスンを追った同名のドキュメンタリー映画にちなんで命名。「地図なき領域を開拓する」という思いを込めています。

Sapporo Creative Convention



**No Mapsは、様々な取組を通じて、
「新たなビジネスを生み出し、加速させる」
ための場を提供していきます。**

**2016年にプレ開催として実施し、2017年が本格開催初年度。
プレ開催の経験を踏まえて事業内容を整理し、5つの事業区分を掲げて、
産業の活性化やクリエイティビティの向上に寄与する事業を多数展開。**

(2) No Maps 2017 開催概要

【開催日】 メイン会期 2017年10月5日（木）～15日（日）（※4日にオープニングイベント開催）
 全会期 2017年4月1日（土）～12月31日（日）

【開催場所】 札幌市内中心部 ※一部例外あり

【事業目的】 ○クリエイティブ産業の活性化と他産業への波及
 ○創業支援・新産業の創造・投資の促進
 ○クリエイティブな市民文化の醸成
 ○札幌・北海道の国際的知名度・魅力の向上
 ○「世界屈指のイノベティブなまちSAPPORO」の実現

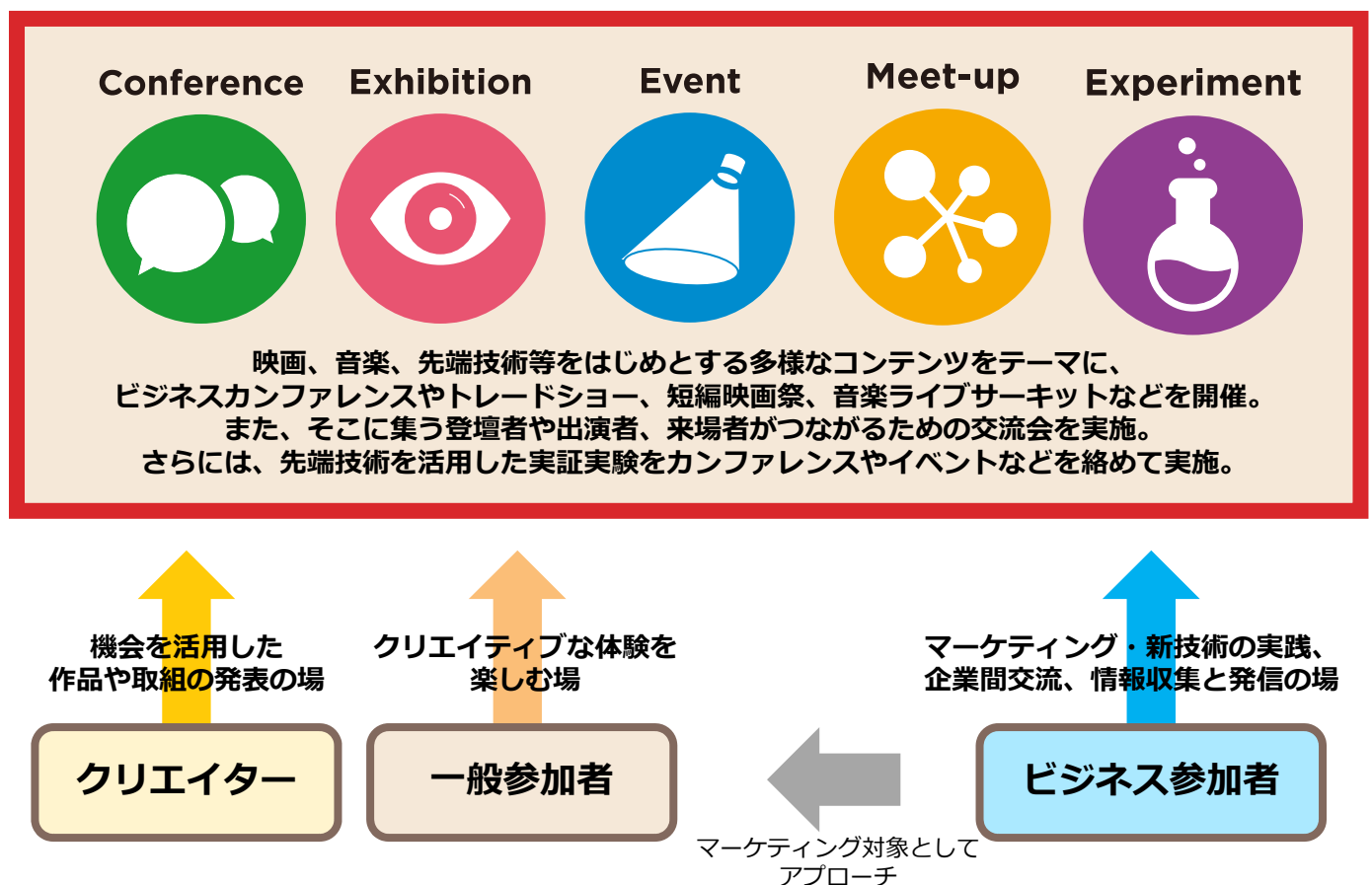
【主催】 No Maps実行委員会

【WEB/SNS】 ウェブサイト <http://no-maps.jp>

Twitterアカウント @no_maps

Facebookページ <http://www.fb.com/NoMaps.jp>

【実施状況】



Ⅱ. No Maps 2017 開催結果

(1) 事業事業数・来場者数等

【総事業数】 **143** 事業（うちメイン会期中の開催 **114** 事業）

【会場数】 **50** 会場（うちメイン会期中の開催場所 **38** 会場）

※同一施設内の別会場はまとめて1会場としてカウント

【来場者総数】 **30,480** 人

※カウントに基づく実数をベースに積み上げ
※一部、会場の性質上カウントが難しい事業については
一部の時間帯の来場者数より推計して計上

（うちメイン会期中の来場者数 **27,379**人）

【参考】No Maps 2016 総来場者数 27,274人（2017年は全体で約11%、メイン会期中で約28%増）

【各事業区分の来場者数内訳】

会議（Conference） 5,189人（61事業）

展示（Exhibition） 8,749人（6事業）

興行（Event） 16,507人（68事業）

交流（Meet-up） 1,521人（23事業）

実験（Experiment） - （6事業）

※実験の体験人数は来場者としてはカウントしていない。

※複数の区分が設定されている事業が多数あるため、各区分の来場者数・事業数の合計はNo Maps 2017全体の総数と一致しない。

(2) 事業区分毎の主な事業

2019年度目標 **50,000** 人

Conference



メディアアーツ・ミートアップ／北海道Likers × No Mapsスペシャルトークセッション／Vimeo Staff Picksの秘密／
農Maps@No Maps～北海道米LABO～／ITがもたらす地方創生／北海道でYouTuber施策やってみた！！／
林業ハッカソンサミット～林業家とIT技術者が作る未来への一歩～／教育2020年問題～IT教育のこれから／
農業、漁業、産業、観光、そしてAI～IoT、ビッグデータを利用した北海道からの人工知能の取り組みへ～／
本物の地方創生～地域コンテンツの磨き方～／地域社会とモビリティの将来、そしてAI／“Spark! Innovation” meet-up in Sapporo／
AIからHI(Human Intelligence)へ 価値観・HIコンソーシアム／宇宙はもうSFじゃない、すぐそこにあるリアル／
Open Port Club - Artist Residency Program 2017／小型ロケットと低コスト衛星の未来／将棋が見せてくれた人工知能の世界／
ライゾマリスサーチ真鍋大度 × Niantic 川島優志～モチベーションの原点を探る～／Future Sound Interface／
STEAMS教育プロジェクト「場所を持たない学校」 他 全61事業

Exhibition



No Maps Trade Show 2017／
ローカルクリエイターズエキシビション／
チカホAR体験ゾーン＆インタラクティブ体験ゾーン／
Future Sound Interface 他 全6事業

Event



No Maps 2017 オープニングイベント／第12回札幌国際短編映画祭／ジュニア・プログラミング・ワールド2017／
『髪のもで音を感じる装置「Antenna」と、音と映像のシンクロにフォーカスした映画「Noise」が創り出す新しい映像鑑賞体験会』
チカホ あへあほロボット 体験イベント／Open Port Club - Artist Residency Program 2017／CROSS POINT／
没入祭 - VR FESTIVAL SAPPORO 2017／FONS6UP／Elektrobump（エレクトロバンプ）／
No Maps Live Circuit SESSION ～RYO the SKYWALKER “SUPER DANCEHALL ME” CLUB TOUR IN SAPPORO
STONED PARADISE supported by 43 FORCE RECORDS／懐かしい未来コンサート／Sapporo Neutral 2017／IDOL DIVERSITY
北海道高等学校文化連盟第1回全道高等学校 軽音楽新人大会／ROCK DIVERSITY／
The VOX Sapporo A cappella Performance Competition／SAPPORO ANI-HIGH!! 2017／No Maps × お笑い 他 全68事業

Meet-up



メディアアーツ・ミートアップ／
北海道Likers × No Mapsスペシャルトークセッション／
農Maps@No Maps～北海道米LABO～／
No Maps 2017 Reception Party／No Maps Meet ups
“Spark! Innovation” meet-up in Sapporo 他 全23事業

Experiment



「Antenna」と「Noise」が創り出す
新しい映像鑑賞体験会
札幌中心市街地で自動走行パフォーマンス
IDOL DIVERSITY（ブロックチェーン活用実証）
他 全6事業

Conference



「新しい価値・文化・社会の姿」を提案するコンテンツやビジネス等を題材に、No Maps Business Conference 2017を核として、44の関連事業を行い、来場者に情報の受発信や議論、創発などの場を提供しました。

【実施概要】

- 関連事業数 61件（うち協賛セッション 4件、連携事業37件）
- 来場者数 5,189人

【主なテーマ】

#地方創生 #YouTuber #人工知能 #一次産業TECH #教育×IT #観光TECH #スタートアップ #ドローン
 #コンテンツビジネス #イノベーション #ブロックチェーン #宇宙ビジネス #IoT #バイオTECH
 #マーケティング #サステナブル #ウィンテージソサエティ #次世代モビリティ #クリエイティビティ
 #メディアアーツ #映像制作・配信 など

■ No Maps Business Conference 2017

本格的なビジネスカンファレンスは今年が初めてとなりましたが、道内外から新しい社会を創るイノベーターに多数登壇いただいたことで、講演・ディスカッションは充実した内容となり、来場者の満足度も高いものとなりました。

農業、漁業、産業、観光、そしてAI



“Spark! Innovation” meet-up in Sapporo



本物の地方創生



～モチベーションの原点を探る～



宇宙はもうSFじゃない、すぐそこにあるリアル



No Maps NEDO Dream Pitch 2017



Exhibition



「新しい価値・文化・社会の姿」を提案する新技術やコンテンツ、サービス等の展示/発見の場を提供することを目的に、チカホを中心にNo Maps Trade Show 2017を開催。特定分野に特化した特別展示やメディアアーツ作品の展示、インタラクティブな体験展示なども行いました。

【実施概要】

- 開催事業数 6事業（うち連携事業1件）
- 出展企業数 57社・団体
- 来場者数 8,749人

次の社会を支える先端技術や、斬新なサービス、コンテンツなどが集結。特に一般の市民の方々に、普段触れることの少ない先端技術・サービス等を対峙してもらう機会となりました。

【出展企業】

CG WORLD Entry Live（日本工学院北海道専門学校、総合学園ヒューマンアカデミー札幌校、吉田学園情報ビジネス専門学校、株式会社アレクト、exsa株式会社札幌スタジオ、株式会社インフィニットループ、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社、株式会社エイディング、株式会社スマイルブーム、株式会社メディア・マジック）、株式会社トラパンツ、Inter×CrossCreative Center、Sapporo AI Lab、TSUKUMO、株式会社アニプレックス、大日本印刷株式会社、株式会社セイン、株式会社クリエイターズインバック、株式会社N.ジェン、SDエンターテインメント株式会社、ビジネスEXPLO、北海道アグリ・フードプロジェクト、富士通株式会社、FUJITSU UX CLUB、ライオン株式会社、中小機構北海道 北大ビジネス・スプリング、株式会社東京光音、株式会社ポニーキャニオンエンタープライズ、株式会社ヤブシタ、株式会社ジーアングル、北海道IoTビジネスプラットフォーム、一般社団法人 北海道IT推進協会（株式会社 インサイトテクノロジー/株式会社 流研/株式会社 アジェンダ）、BULB×WAKO DENKI、一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構、Sapporo AI Lab（株式会社サンクレエ）、北海道、ASCI START UP（株式会社ルーラー、株式会社農業情報設計社）、078kobe.jp（078実行委員会）、北翔大学、北海道情報大学、北海道札幌岸高等学校、札幌大谷大学、札幌フィルムコミッション、総務省北海道総合通信局、経済産業省北海道経済産業局、独立行政法人中小企業基盤機構北海道本部、札幌市環境局環境計画課、専門学校北海道ドレスメーカー学院、SONICWIRE、SONOCA / ROUTER、株式会社エムアイセブンジャパン、BITWIG / IRRUPT、北海道大学大学院情報科学研究科 他（順不同）

■ No Maps Trade Show 2017

新たな製品・サービス、技術をビジネスマンや多くの市民に知ってもらう、体感してもらう場として開催。



■ ローカルクリエイターズエキシビション

前期は道内学生のメディアアーツ作品展示を、後期は官公庁の次代に向けた先端的な活動の展示をチカホ会場で実施。



■ Future Sound Interface

「音」に関するテクノロジーを集めた展示やセッションを実施。音楽イベントのチケット交換所を兼ね、ターゲットにピンポイントで訴求。



■ AR体験コーナー（チカホ）

Kinectを活用したコンテンツをチカホの大型サイネージなどで展開。子どもを中心に多くの市民にインタラクティブ体験を提供。



Event



短編映画祭や市街地のライブサーキットを中心に、市民が気軽に参加しやすい体験型イベントの形で、新たなコンテンツを体感したり、新たな技術やサービスを体験できる場を提供しました。

【実施概要】

- 事業数 68事業（うち連携事業16件）
- 来場者数 16,507人

実験的な取組を含めて、コンテンツを活用した多様なイベントを開催し、多くの方に“新しいコンテンツ”を体感してもらうとともに、“No Maps”を認知してもらう場にもなりました。

■札幌国際短編映画祭

第12回を数える札幌国際短編映画祭は、3,500以上の募集作品の中から選りすぐったショートフィルムの上映などのほか、音楽との融合の観点から特別プログラムとして映画音楽の世界を垣間見ることのできる「すばらしき映画音楽の世界」を上映したほか、北海道出身監督や北海道内で制作された最新のミュージッククリップ作品を上映する「北海道ミュージックビデオ」などを実施しました。



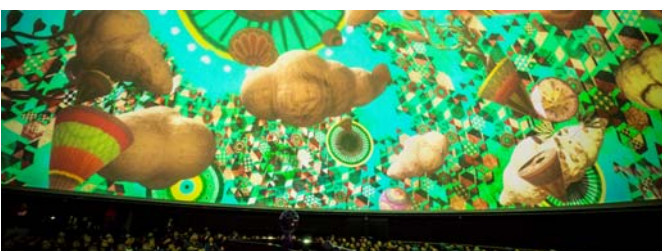
■No Maps Music Weekend

中心市街地のライブハウスを渡り歩くライブサーキット、実証実験の受け皿となりつつあるアイドルライブ、大学生や高校生の音楽活動の発表の場など、ジャンルもコンセプトも異なる多数のライブを開催しました。



■没入祭 VR FESTIVAL SAPPORO

昨年度に引き続いての開催となった没入祭は、新たな試みとして、プラネタリウムでのドームムービー上映など青少年科学館との連携も実施。

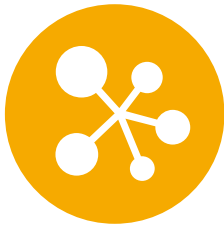


■ジュニア・プログラミング・ワールド2017

子ども向けプログラミング体験を多数集めた体験会は、予想を超える多くの親子の来場があり、関心の高さがうかがえました。



Meet-up



登壇者、出演者、来場者、関係者ら、「新しい価値・文化・社会の姿」に関心のある多様な人たちが自由に出会い、つながり、さらなる価値を紡ぐためのネットワーキングの場を多数提供しました。

【実施概要】

- 事業数 23事業（うち連携事業8件）
- 来場者数 1,521人

No Mapsの事業の多様性と相まって、非常に多様な職種・業種の方々のネットワーキングを行い、新たな動きにつながる出会いを創出しました。

■ No Maps Meet-ups

ビジネスカンファレンス期間中、会場併設のラウンジで毎日昼、夜にミートアップ事業を開催。登壇者、関係者も交え、多くのビジネス交流を生み出しました。



■ レセプションパーティ

No Mapsに参画・協力する方々をお招きし、産官学あらゆる分野の方々との交流の機会を提供。

■ その他交流の場を多数用意

レストランやBARを会場に、フランクな会話でネットワーキングするミートアップも多数実施。



Experiment



自動走行の実証実験やブロックチェーン技術のエンターテインメントへの応用など、「新しい価値・文化・社会の姿」を提案する技術やサービスの社会的な実証実験の場として提供しました。

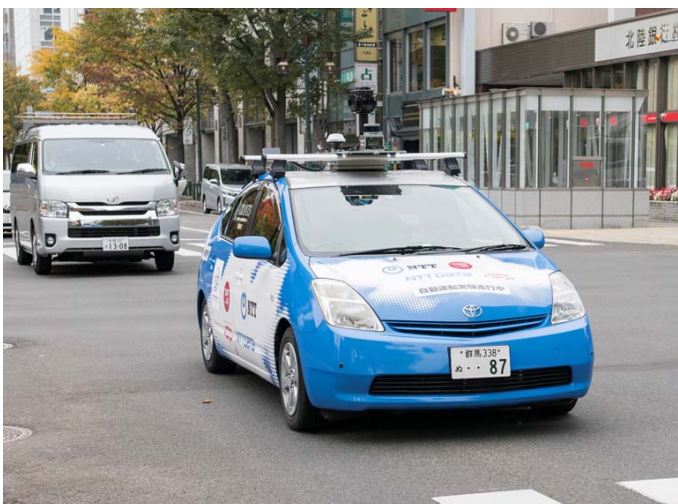
【実施概要】

○事業数 6事業（うち連携事業1件）

メイン会期外の実証実験も含め、「札幌・北海道を実証実験・社会実装の聖地にする」という目標に向かって、No Mapsの強みを活かした取組を実施できました。

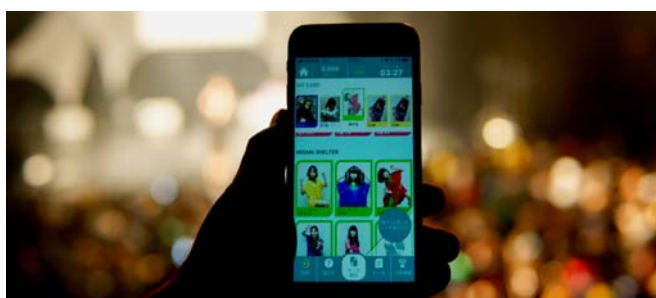
■ 中心市街地における自動走行実験

日本電信電話株式会社(以下、NTT)、NTTデータ、群馬大学との連携により自動走行のパフォーマンスを実施。NTTと札幌市は「さっぽろまちづくりパートナー協定」を結んでいること、No Mapsが調整役として、北海道自動車安全技術検討会議（北海道経済部産業振興課）らと連携を密に図り、実現に向けた障壁を短時間でクリアすることによって実現が可能となりました。



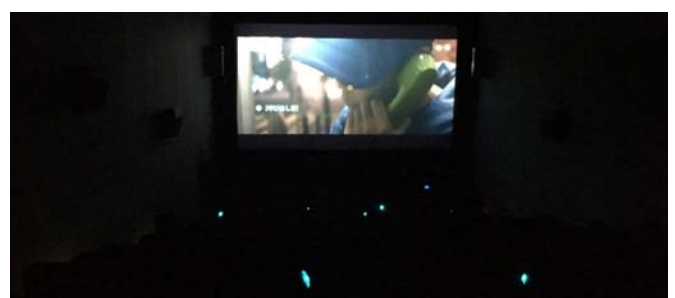
■ ブロックチェーン技術のエンターテインメントでの活用にかかる実証実験

非金融分野におけるブロックチェーン技術の用途拡大を目指し、IDOL DIVERSITY のライブ中に専用アプリを活用した実証実験を実施しました。
＜リクルートテクノロジズとの共同実証実験＞



■ 音を振動と光に変換するデバイスを活用した新たな映像体験の実証実験

聴覚障がい者の方でも、音を振動と光に変換するデバイスで映像を臨場感をもって体感し楽しむための映像鑑賞体験会を実施しました。
＜vivito、富士通との共同実証実験＞



Ⅲ. 効果測定 <アンケート調査実施結果>

「No Maps 2017」にて開催した各種イベントの来場者を対象としたアンケート調査を実施し、回答者のプロフィール、イベントへの参加目的と評価、各分野への興味やイベント参加の有無、「No Maps 2017」への評価・意見などについて把握した。

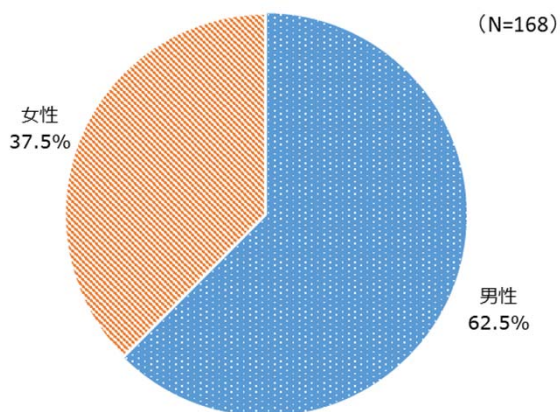
来場者アンケートの実施に当たっては、Web上に回答用ページを作成し、「No Maps 2017」の各会場において、回答用ページのアドレスに誘導するQRコードを記載したWebアンケート誘導チラシを来場者に配布することで来場者からの回答を集めた。

なお、来場者アンケートの誘導チラシは全体で5,000部を配布し、最終的に168件の回答を得た。

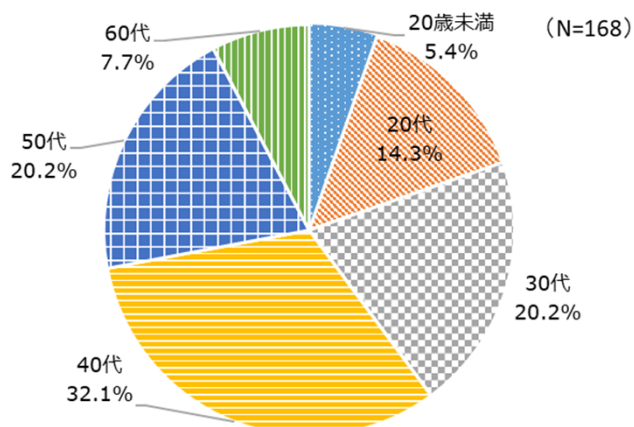
○回答者属性

性別では男性が6割とやや多く、世代をみると、40代が3割強と最も多く、30代、50代が2割程度で続いている。

■性別

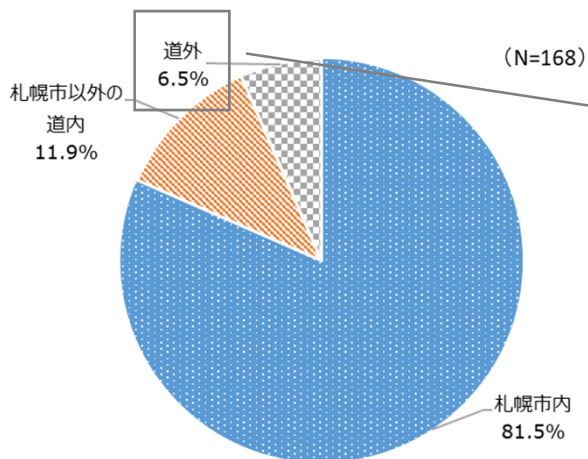


■年齢

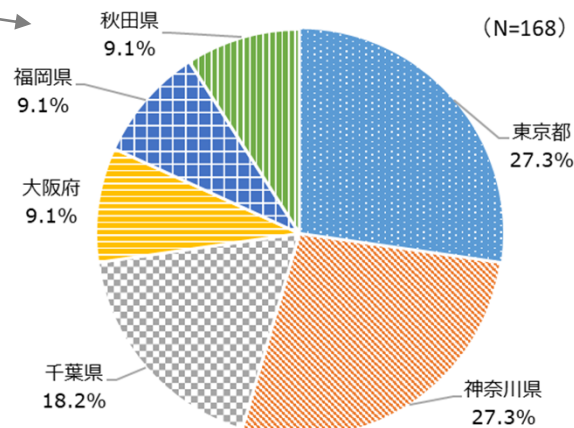


来場者の3/4が札幌市内居住。道外からの参加者は6%程度で、その多くが関東圏からの参加となっている。

■居住地



■道外居住地

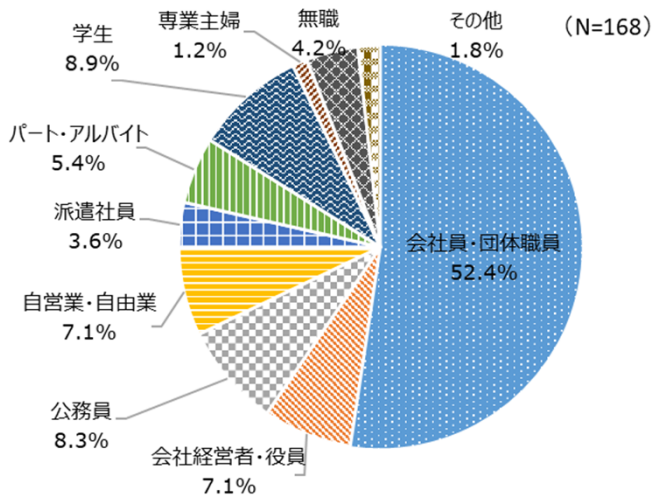


Ⅲ. 効果測定（アンケート調査実施結果）

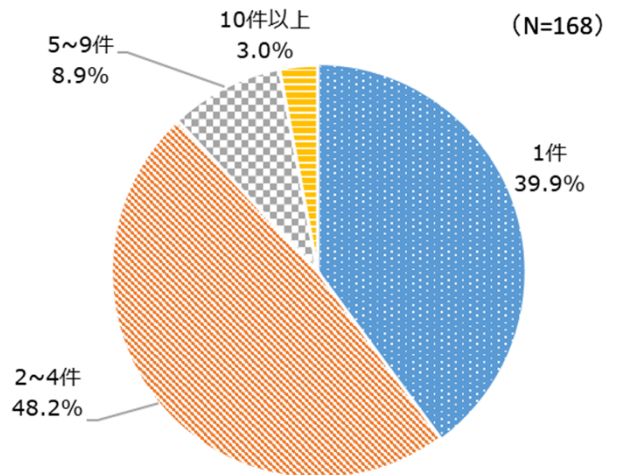
「会社員・団体職員」が52.4%と最も多く過半数を占めており、「学生」が8.9%、「公務員」が8.3%と続いている。

セミナー・イベントへの参加件数をみると、「2～4件」が48.2%と最も多く全体の約半数を占めている。5件以上のイベント・セミナーに参加した人も11.9%いた。

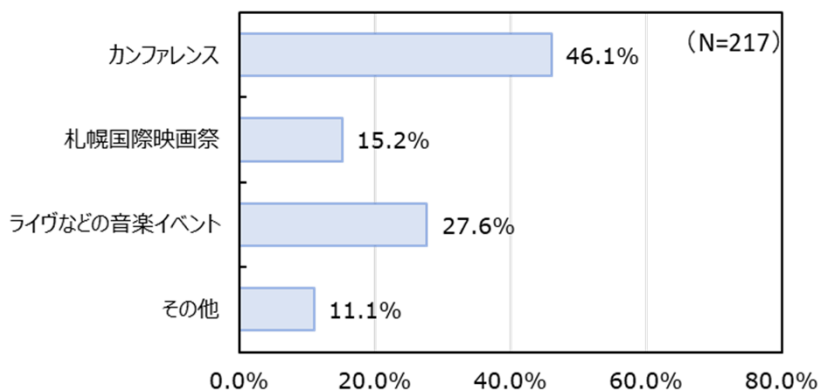
■ 職業



■ 参加した事業数

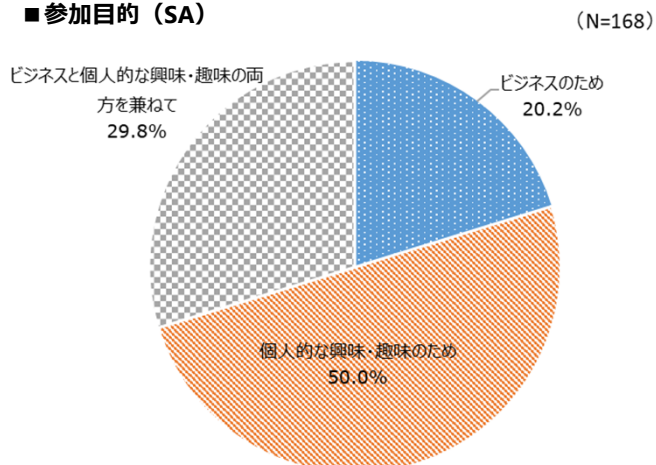


■ 参加したセミナー・イベントの内容（MA）



参加した事業をみると、「カンファレンス」が46.1%と最も多く、次いで「ライブなどの音楽イベント」が27.6%、「札幌国際映画祭」が15.2%となっている。

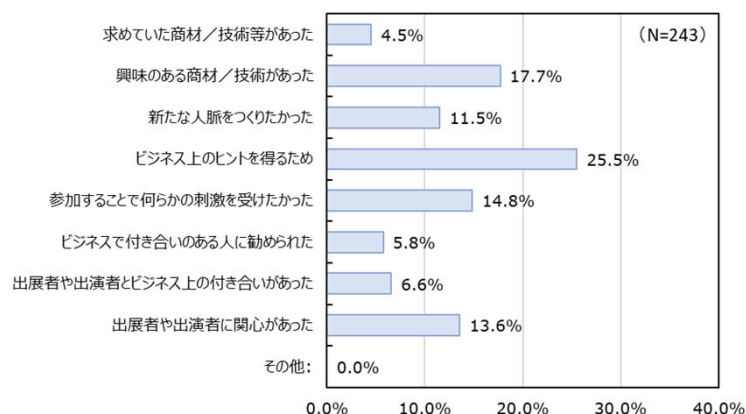
■ 参加目的（SA）



参加目的をみると、「個人的な興味・趣味のため」が50%、「ビジネスと個人的な興味・趣味の両方を兼ねて」を含めたビジネスも視野に入れての参加が50%となっている。

Ⅲ. 効果測定（アンケート調査実施結果）

■ビジネス目的の参加者の関心



ビジネス目的の参加者の具体的な関心を見ると、「ビジネス上のヒントを得るため」が25.5%と最も多く、次いで「興味のある商材／技術があった」が17.7%、「参加することで何らかの刺激を受けたかった」が14.8%と続いた。

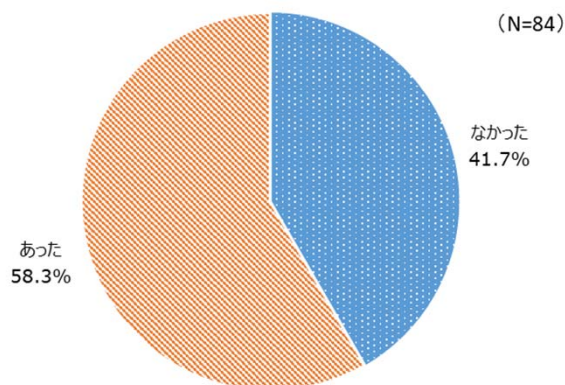
ネットワーキングに関する評価

ビジネス目的で参加した方に、ネットワーキングに関する評価を聞いた。

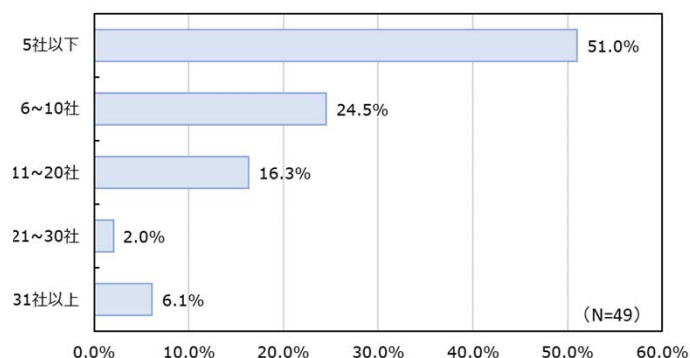
No Mapsの会期中での名刺交換の機会の有無を訊ねたところ、「あった」とする人は58.3%となった。

交換した企業数では、「5社以下」が51.0%と半数を超えており、名刺交換数はそれほど多くない回答者が多かったが、30社以上名刺交換を行った回答者もいた。

■名刺交換の機会の有無

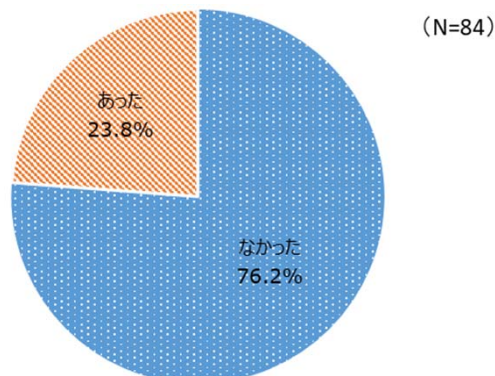


■名刺交換をした企業数

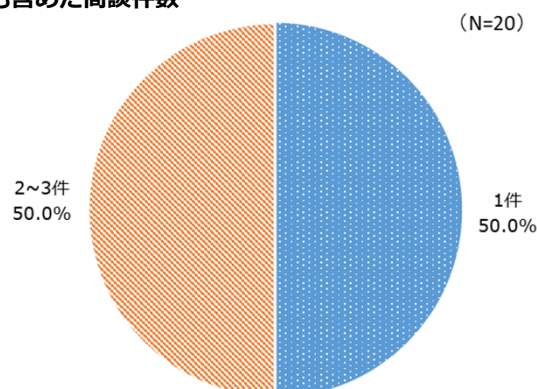


また、回答者のうち、23.8%が新たな商談につながった（つながりそうな）事例が「あった」としており、その件数は「1件」が50.0%、「2～3件」が50.0%となっている。

■新たな商談につながった（つながりそうな）事例の有無



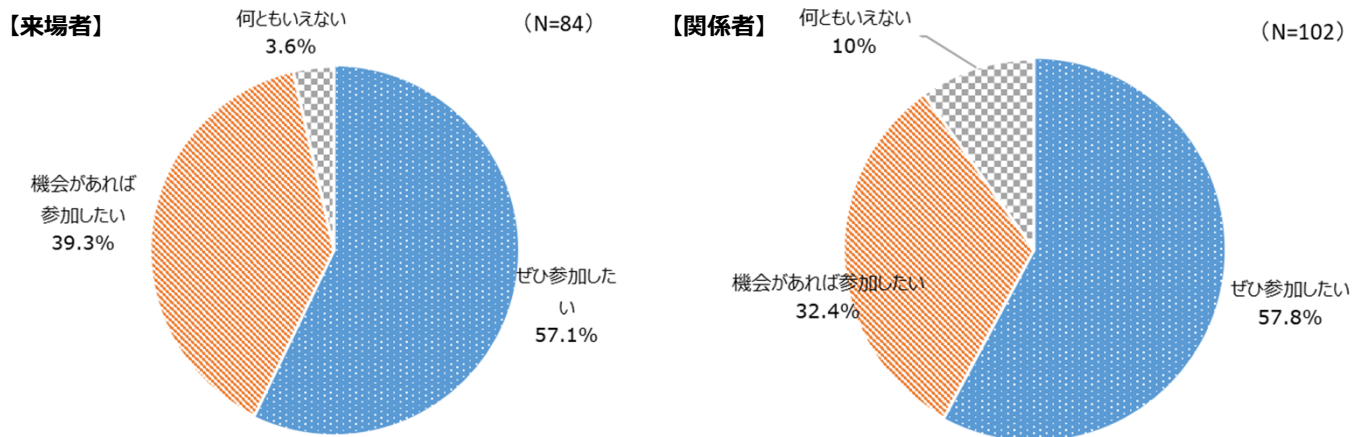
■見込も含めた商談件数



来場者とは別に、登壇者や出演者、出展者も含めた事業運営関係者にもアンケートを行い、ビジネスにつながりそうな成果の有無を訊ねたところ、「ビジネス上の新たな人脈づくり・ネットワークづくりにつながる」が56.0%と半数を超えており、No Mapsをネットワーキングの場として活用あるいは期待していることがうかがえる。

来年以降のNo Mapsへの参加意向をみると、「ぜひ参加したい」が来場者、関係者ともに最も多く、回答者全体の6割近くを占めている。

■ 来年以降の「No Maps」への参加意向

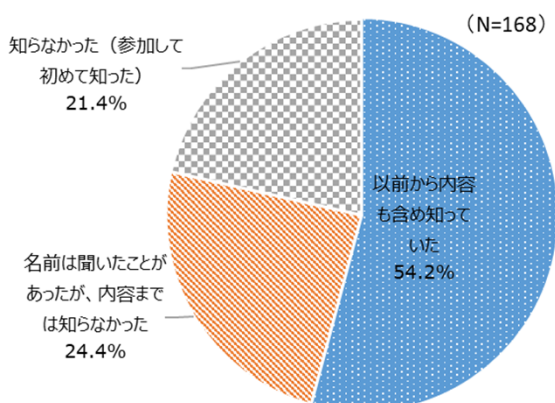


No Mapsの認知度

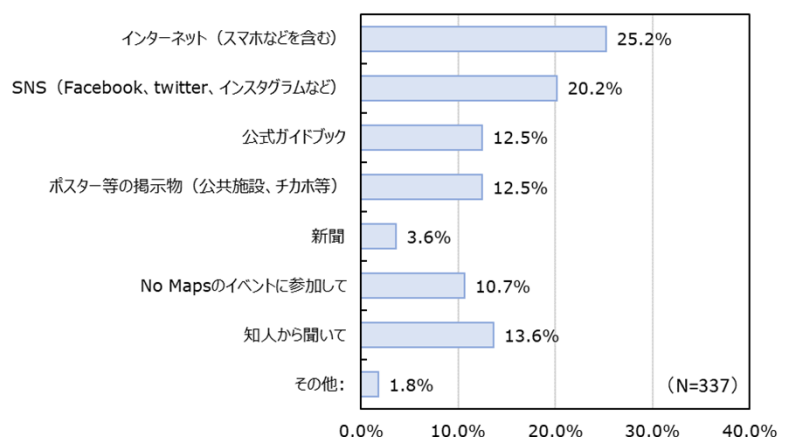
「No Maps」事業への認知をみると、「以前から内容も含め知っていた」が54.2%と最も多く、次いで「名前は聞いたことがあったが、内容までは知らなかった」が24.4%、「知らなかった（参加して初めて知った）」が21.4%と続いている。

No Maps 2017に関する情報の入手場所等をみると、「インターネット（スマホなどを含む）」が25.2%と最も多く、続いて「SNS（Facebook、twitter、インスタグラムなど）」が20.2%とインターネット関係の告知での認知が大きい。また、「公式ガイドブック」「ポスター等の掲示物」がそれぞれ12.5%と一定の広報につながっている。

■ No Mapsの認知度



No Maps について知った情報源



【問合せ先】

No Maps実行委員会（担当：事務局・廣瀬）

〒003-0005

札幌市白石区東札幌5条1丁目1－1

インタークロス・クリエイティブ・センター 2FH

TEL 011-812-2000 FAX 011-812-2001

E-mail info@no-maps.jp URL <http://no-maps.jp>